



わたしにとって日本とは

セマル・アティシ

らつておけばサイクリングをもっと楽しめたのにと
思った。さらに日本は鉄道網が発達しており都市生活において公共交通がいかに重要かを示している。乗り方は外国人から見ると複雑なようであるが基本事項―切符の買い方、路線の選び方など―を覚えれば大変便利なものである。

食べ物については最初、日本食に自分を慣らすのが難しかった。しかしまもなく日本食はとても健康的であることを理解した。自分でも作ろうと思えば新鮮な材料がいつでも手に入る。なかには口に合わない食べ物もある。生魚がそれである。いまも食べるのは遠慮したい。しかし、カレーライスのようにトルコの食文化と似た味の食べ物もある。さらに、小さなケーキやお菓子、とくにフルーツがのっかったものが好きだ。ところでフルーツは大好物でトルコでは比較的安いこともありキロ単位で買い求める。しかし日本では果物は非常に高いので普段より食べるができない。

驚いてしまうのは日本にはファースト・フードの店の数が非常に多いことだ。以前は、日本人の食へのこだわりを考えると外国からきたファースト・フード店は、はやらないだろう思っていた。しかし日本人の生活様式がここ数年で変化し、せかせかしたものになったという現実を踏まえればそうした店が日本人のニーズを満たすようになって

たのかもしれない。レストランで興味深いのは食後チップを払わなくてもよいことだ。客にとってはおもてなしのことだ。客が行列を作って待っている店もあるが、私には奇妙にうつる。満員だったら他の店に行くのが普通だからである。

ところで自動販売機の数の多さは極めて印象的である。他の国でも置いてあるのを見かけたことがあるがこんなに多くはない。これらの機械が皆的確に素早く作動するのにもびっくりする。興味深いことに五年前と比べ価格は同じままだ。実を言うところの私も自販機の常客である。

自由な時間があると私は食料を買いに出かける。お気に入りの場所は、職場からもアパートからも近いヨーカドーである。幕張の海岸もよく行く。週末を過ごすにはすばらしい場所である。日本について考えるとき最初に頭に浮かぶのはお花見の季節である。私が春に満開の桜を初めて眺めたときその花の美しさに魅了された。どこもかしこも白い桜の花が満開に咲いている。風が吹きすると花びらが雨のように舞う光景になる。呆然とさせる眺めなのである。お花見を逃した人はたいへん寂しい思いをされるのではないかと思う。

日本の生活様式についていえば、住まいも公共の場所もあっさりしていて心地がよい感じがする。一般的に言って、誇大的な表現がない。私は最小限を美德とする人間なので私自身の生活スタイルに合っている。職場での生活も人との意思疎通のしかたもとてもユニークである。日本人は寡黙にして几帳面に仕事をやる。コミュニケーションにはすぐく気を遣っている。いまの職場でもそれは言える。結局、研究者が必要としているのは豊富な研究資料が備わった静かな場所である。

五年ほど前に研究のため筑波に一年間滞在したことがある。五年たつて再度日本を訪問してみても私はいかに多くのものを懐かしくおもったことだろう。私にとって日本で暮らすことは調和を保ち、秩序だつて、気取らずに生きていくことを意味していた。

最初に訪れたとき、まず気づかされたのは―ほかの外国人もおおかた同じだろうが―交通が円滑に流れていることであつた。昔のままの街は道路が狭くラッシュ時には混雑することもあるが、ドライブは互いに、また通勤人に気をつけているため大きな問題も発生しない。私が生まれた町でもそのような生活様式が存在したら私は賞賛するだろう。自動車のほか、多くの人々が自転車を利用しており、環境にもよいことだ。私自身自転車は日本で乗り方を覚えたのだが、もっと早くな

Cemal Atici / 海外客員研究員

トルコ出身

Associate Professor, Department of Agricultural Economics Adnan Menderes University

研究テーマ: Trade Liberalization and Environmental Interaction in Japan and ASEAN

滞在期間: 2010年5月から11月まで